

令和3年度学部卒業生への祝辞

2020年度、2021年度数学・数理解析専攻長

前川 泰則

学士学位記授与式式辞

皆様、この度はご卒業おめでとうございます。

一昨年度、昨年度と、コロナ禍により学位記授与式は実施できませんでしたが、今年度は、同窓会ならびに数学事務室の皆様のご尽力により、対面での学位記授与式を実施する運びとなりました。コロナ禍以前に催していた懇親会は残念ながら今年度も開催できませんが、少しでも皆様の門出を一緒にお祝いすることができ、大変嬉しく思っています。

いうまでもなく、コロナ禍は社会を一変させました。特に、勉学や友人関係を築く大事な時期である皆さんへの影響はとて大きかったと思います。コロナ禍を通して痛感したことは、私たちは対面でのコミュニケーションから、私たちが思う以上に、多くの情報を受け取っており、インスピレーションを受けていることです。

さて、皆さんは京都大学で数学を学ぶ選択をされ、研鑽を積んでこられました。数学というのは、習得するのに時間のかかる学問だと思います。ときとして本や論文を1ページあるいは1行理解するのに何日もかかることがあります。何度も考え、調べ、人と議論して、一つ一つ積み上げていき、そして一度理解したと思ったこともしばらく時がたつとすっかり忘れていたりもしますので、また一から考え直して…。こういったことを何度も繰り返します。その積み重ねた1行1行があって、皆さんは今ここにいます。

今後大学院に進学される方は、さらに専門性の高い知見を深めていくこととなりますが、その一方で、皆さんの今後の長い人生の中で見ると、大学で学んだ数学が具体的に直接役に立ったり、使えたりすることは必ずしも多くはないかもしれません。しかし、数学を通して培った豊かな教養、論理的にもものを見る力（ここでの論理的とは、単に因果関係を考えるだけではありません。その背後にある本質は何かを考え、また数学の定理には必ず仮定がありますが、どのような仮定が大事なのか、そういった検証もふくみます）、そして一つの分野について時間をかけて取り組んだ経験で得られる自信、これらは必ず皆さんの今後の支えになると確信しています。

これから時代を進めていくのは皆さんのような感受性が豊かで活力のある若い世代です。皆様のご活躍を期待しています。あらためて、ご卒業おめでとうございます。